

公募

西湖地区アーティストインレジデンス国内作家

西湖地区アーティストインレジデンスは、国内外からアーティストが集まり、交流をしながら作品を制作することを通じて、アーティスト自身の経験を豊かにし成長へとつながっていくこと、また、公開制作や展覧会による地域の人々への美術の普及への機会となることを目的としています。

1. 期間: 2011年11月7日(月)～11月18日(金)
 2. 実施場所: 小田原市内に 宿泊場所、制作場所を提供
 3. 募集人員: 日本人5～6名(年齢問わず)、海外作家は別途募集する(5～6名)
 4. 1次審査: 2011年7月末日までに作品資料等を実行委員会宛に提出
 5. 2次審査: 2011年8月中に、面接審査、決定発表8月末
 6. 参加費: 無料ただし、画材の一部と会場までの往復交通費は各自負担
 7. 制作作品: 期間中制作した作品のうち、1人2点 実行委員会に寄贈
 8. 展覧会: 終了後、小田原市清閑亭およびすどう美術館で展覧会を行う。その後南足柄市文化会館に巡回展
 9. 交流事業: 会期中、児童・生徒や一般を対象としたワークショップの講師等を依頼することがある。また、制作の公開に協力する。
 10. 主催: 西湖地区アーティストインレジデンス 実行委員会
- お申し込みお問い合わせは、すどう美術館まで

「東日本げんきアートプロジェクト」に参加して

皆藤由美子

あの3月11日から、早くも4カ月が過ぎようとしています。

大学時代からの親友が、結婚して宮城に住んでいました。彼女は今回の震災による津波で大切な家族を失ってしまいました。彼女の家族が消息不明と知った時の気持ちをどう表現したらいいのでしょうか。文字通り息が詰まって意識が真っ白になってしまいました。胸が潰れるとは、あんな時に使う言葉なのかも知れません。

あれから4カ月。被災地では未だに過酷な状況のもと、癒える事の無い悲しみに傷ついている方々が沢山いらっしゃいます。すどう美術館に集う方の中にも、ご自身の家族や親戚、友人が被災され、その気持ちに寄り添いながら心を痛めている方も多い事と思います。

「東日本げんきアートプロジェクト」のミーティングに声をかけて頂いたのは5月の初めの事でした。ギャラリー無有齋のオープニング・コンサートで、大鹿由希さんを始めとする出演者の皆さんの総意として、出演料を「被災地復興に役立てたい」とすどう美術館へご提案があった事がきっかけで発足したプロジェクトという事でした。「被災地復興のために、傷ついた人の為に、何か出来る事は無いだろうか？」私達は真剣に話

しました。集った有志作家はそれぞれにチャリティーについて考えていましたが、具体的な行動のきっかけを得られずにいたのだと思います。そんな時、それぞれの考えを持ち寄って話し合う機会を頂けた事で、少しずつ、目標の形やそれに対しての問題点などが見えてきました。東日本げんきアートプロジェクトとは、今まさに歩き始めたばかりの活動なのです。

先日、その第1回目の企画として、すどう美術館に於いて「チャリティー展」が開催されました。初日には大鹿さんが出演する室内楽のチャリティーコンサートも行なわれ、短い期間の呼びかけにも関わらず多くの作品が寄せられました。アイデア溢れたグッズを提供して下さった作家さんや、大作を寄付して下さった作家さんもあり、想いが集まるとこんなに大きな力になるのだと実感出来る、大変素晴らしい感動的な展覧会となりました。

現在、広報サポートのためのブログを立ち上げてみました。閲覧可能な方は是非一度、御覧頂ければ嬉しいです。今後ともご支援のほど、どうぞ宜しくお願いします。「東日本げんきアートプロジェクトブログ」⇒

<http://ameblo.jp/genkiart>

展覧会 info

SCA 勝田素子展
8月7日(日)～9月4日(日)
11:00～19:00 (最終日～17:00)
月曜休館

高橋玉恵展
8月23日(火)～9月4日(日)
11:00～19:00 (最終日～17:00)
月曜休館

チャリティ展覧会 会場: ギャラリー無有齋
7月29日(金)～8月7日(日)
会期中無休(11:00～19:00)
無有齋 江東区牡丹3-32-2
Tel 03-3641-0747

編集後記

「そのうち時間が出来るようにになります。そうしたららもっとお手伝いできますよ。」一緒に美術のことやりましたよ。と、言っていました。私も励ましてきたアトさん。いろんな夢を話し、そんなときが来るのを心待ちにしています。ご冥福をお祈りしています。

「アートでお役に立てれば幸いです」とチャリティ展にたくさんの方から作品を提供していただき、たいへん盛況でした。人の温もりが漂った展覧会でした。

須藤紀子

よ志

続々

世界一小さい美術館もものがたり

はじめて八田稔さんが美術館に来てくださったのは十数年前のことです。温かなお顔で入ってこられたその時、今でもはつきり覚えていて、私の出版した本を読まれて会いに来てくれたのだという。それから「館長のファンです」と言っていて、ずっと付き合っている。というよりいろいろな形で応援をしていただいたのである。

八田さんはトラベルプランという会社の社長であり、六本木から京橋へ事務所を移したからギャラリーびびりからのオナーでもあったのだが、そんなえらそうどころは一つも見せず、いつもここにしている。だから一緒に旅をしている。だか

いろいろな思い出はあるが、私が誘い出して、二人だけで石川県の小松にある白山を臨むことのできる秘境とその周辺を案内したことがある。とても楽しかった。海内、国内は音痴なところがあるらしくて、たいへん喜んでくれたのはうれいことであつた。

八田稔さんの別れ

してくださり、「須藤さんいいところに移されましたね、デンマークにあるルイジアナ美術館を彷彿させます」と心から喜んでくださった。